

インテリア科で学んだ知識・技術を活かした支援活動について —「保育園等における技術的支援活動・継続モデルの確立」—

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇（インテリア科）

1 はじめに

インテリア科では木材を使用して家具などを生産する「木材工芸」と、室内空間の設計やコーディネート・色彩計画などの「インテリアデザイン」を大きな2つの柱として学習している。「木材工芸」では科目「インテリアエレメント生産」や「実習」をとおして知識と技術を学び、家具製作や卒業制作の実践を行っている。その中で、自分達の習得した知識、技術・技能が何かの役に立つことに利用できないかと思い、「保育園における技術的支援活動」を行うことを考えた。課題研究の時間を活用し、保育園児と共同で作業を行い、高校生が作業を教えることで、よりものづくりへの意識を高め、また実際に制作したものが利用される喜びを感じられるような活動を考えた。

この活動は平成18年度から継続している。まずはこれまでの活動を紹介する。

①鎌ヶ谷市立道野辺保育園

○平成18年度 act.01 樽太鼓の整理棚制作（実施日：平成18年11月10日，10日）

「樽太鼓」とは直径400mm高さ400mmほどの醤油樽で、樽に蓋をはめた状態で蓋をバチでたたく、保育園のイベントで5-6歳児が行う活動に必要な道具である。これを保管していた棚が朽ちて前のめりで非常に危険な状態であった。まさに目的にある「必要なものをつくる」ことである。1回目は組立前に塗装作業を行った。2回目は塗装した材料を組み立てを共同で行った。事前に仮組立を本校で行い手順を確認していたので、スムーズに作業を進めることができた。園児がドリルドライバーで棚柱と棚板を接合する体験を、生徒が手を添えて介助し、作業を行った。



図1 以前にあった棚



図2 幕板と棚板の接合



図3 仮組立



図4 塗装作業



図5 塗装作業



図6 組立作業



図7 組立作業 ビス留め指導



図8 棚をL字金具で接合する



図9 完成し樽太鼓を収納する



図10 園児との交流

○平成19年度 act.02 おままごと用の整理棚制作（実施日：平成19年11月21日，28日）

外で使用のおままごと道具を園児がスムーズに片付けができる整理棚の制作を行った。できるだけ園児が自分で片付けができるように、事前に道具の寸法を計測し、どこに何を片付けるかを誘導する大きさを提案した。作業工程は前年と同じである。



図11 塗装作業



図12 組立作業の説明



図13 組立作業 ビス留め指導



図14 棚の設置場所の整地作業



図15 棚をL字金具で接合する



図16 完成し道具を収納する

○平成20年度 act.03 下駄箱の制作（実施日：平成20年10月8日，11月12日）

保育園では、特に低年齢児の教室では園庭から園舎へ直接入ることができるように、工夫されている。そこで、登園口に設置してある下駄箱とは違うもうひとつの下駄箱を制作した。作業工程は前年と同じである。



図17 塗装作業



図18 塗装作業



図19 組立作業 ビス留め指導



図20 組立作業 ビス留め指導



図21 完成



図22 壁に転倒防止の金具を設置する

○平成21年度 act.04 おままごと用テーブル・イスの制作 丸太切り体験（実施日：平成22年1月13日）

おままごと用のテーブルとイスを電動工具を使用してビス留めを行う作業と、のこぎりで木を切る体験を行った。絵本等でのこぎりは見たことがあっても実際に木材を切断したことがない園児がほとんどである。そこで手工具で材料を工作し、ものづくりの第一歩を体験してもらうために、丸杭をのこぎりで切断する体験を行った。切断には生徒がどうすれば安全に工具を使用できるかを考えさせた。



図23 テーブルの天板制作



図24 テーブル・イスの脚部



図25 テーブルの脚の接合



図 26 組立作業 ビス留め



図 27 完成したテーブルとイス



図 28 丸太切り体験 生徒が援助する

○平成22年度 act.05 年少用ベンチの制作 丸太切り体験（実施日：平成22年11月24日）

前年に行った丸太切り体験が園児にとって、自ら木材を切ったという充実感や達成感を得られると好評で、引き続き行うこととした。また年少用のベンチの組立を、電動工具を用いて行った。



図 29 作業の説明



図 30 組立作業 ビス留め



図 31 組立作業 ビス留め指導



図 32 丸太切り体験 生徒が援助する



図 33 丸太切り体験 生徒が援助する



図 34 園児とのふれあい

○平成23年度 act.06 花壇の柵の制作 丸太切り体験（実施日：平成23年11月16日）

前年度に引き続き、丸太切り体験は非常に好評であったので継続して行うこととした。学校で事前にシュミレーションを行うなど、より安全に作業を進めるために、どう園児に接すればいいかを考えるようになった。



図 35 ビス留めの練習



図 36 園児により声かけを行う



図 37 組立作業 ビス留め指導



図 38 丸太切り体験 生徒が援助する



図 39 丸太切り体験 園児一人で行う



図 40 完成 集合写真

インテリア科の継続的な地域への貢献活動が認められ、「2011 千葉教育大賞」を受賞することができた。

活動の開始から6年が経ち、実際に保育園で使用することでメンテナンスも必要になってくる。そこで、技術的支援活動を継続的に活動していくモデルの確立を目指し、また自分達が行った活動をプレゼンテーション等の言語活動をとおして、きちんと伝えることを研究の主題としていきたい。

2 研究計画

(1) 安全作業のための研究

安全な作業を行う上で必要な事項として「安全なものをつくる」ことがあげられる。特に保育園では小さな子供達が活動している。大人が考えられない行動や遊びなどを行う可能性がある。そして、どのように安全に作業を行うか十分に考えなければならない。園児との共同で作業を行うためにどのようにしたら道具の使い方を伝えられるか、けが等をしないで作業ができるかなどを考える。

(2) メンテナンス作業の研究

この活動は平成18年度からスタートしており、平成24年度で6年が経過し、初期に制作したものがだいぶ劣化していると考えられた。これまでのこのような制作ボランティア活動は、必要なものを制作して終わりということが多かったと思われる。しかし、活動の継続性を考えるならば、作ったものを定期的にメンテナンスしていくことが必要不可欠となってくる。そこで、どのような方法でメンテナンス作業をしていくか、活動の継続モデル確立を考える。

(3) プレゼンテーションの研究

工業科の各科においては課題研究の成果を校内等で発表している。インテリア科では、特に、人前でプレゼンテーション（以下、プレゼン）できる力を身につけることを大きな目標としている。これは自分自身が考えていることを分かりやすく人に伝えるということで、デザインの一部であり、言語活動の充実、コミュニケーション能力の向上が考えられる。平成24年度より校内で在校生等への発表に加え、千葉県立現代産業科学館（以下、現産館）で卒業制作展（以下、卒展）でも、一般に公開しプレゼンを行うこととした。ここでは生徒が活動をきちんと伝えるための方法を考える。

研究の活動計画を以下の表にまとめた。

表1 活動計画

年度	月	活動場所	活動内容
24	5	本校	今年度の計画
	6	本校	被災地支援活動 子供イスの製作
	7	本校	被災地支援活動 子供イスの製作
	8	宮城県東松島市のびる幼稚園	被災地支援活動 子供イスの寄贈 メンテナンス共同作業
	9	本校	平田保育園での活動の準備
	10	本校	被災地支援活動紹介のためのパネル製作 平田保育園での活動の準備
	11	本校 市川市立平田保育園	文化祭で、被災地支援活動の紹介パネル展示 平田保育園での活動の準備 作業
	12	本校	平田保育園での活動のまとめ
	1	本校	課題研究発表会 プレゼンの準備 卒展でのプレゼンの準備 道野辺保育園での活動の準備

年度	月	活動場所	活動内容
	2	本校 千葉県立現代産業科学館	課題研究発表会 インテリア科卒展 公開プレゼンテーション 道野辺保育園での活動の準備
	3	鎌ヶ谷市立道野辺保育園	道野辺保育園での活動の準備 作業 道野辺保育園での活動のまとめ
25	4	本校	道野辺保育園での活動のまとめ 今年度の計画
	9	本校	平田保育園での活動の準備 作業
	10	本校 市川市立平田保育園	平田保育園での活動のまとめ 道野辺保育園での活動の準備
	11	本校 鎌ヶ谷市立道野辺保育園	道野辺保育園での活動の準備 作業 道野辺保育園での活動のまとめ
	12	本校	課題研究発表会 プレゼンの準備 卒展でのプレゼンの準備
	1	本校	課題研究発表会 プレゼンの準備 卒展でのプレゼンの準備
	2	本校 千葉県立現代産業科学館	課題研究発表会 インテリア科卒展 公開プレゼンテーション

3 研究内容

(1) 安全作業のための研究

安全に作業を行うということは、危機管理能力を養い、またものを大切に心を育むと考えられる。そして活動を行う生徒は小さな子供に作業を教えることで、自分達の作業内容を把握し、的確に指導を行わなければならない。よって自分達の行う作業について目的意識を十分に持つことができるのではないかと。また完成後の達成感も大きいのではないかと。これが大きな目的となりうるのではないかと考える。平成24年度は、より地域との関係を重視し市川市立平田保育園で実施することになった。保育園側と実施内容について話し合いを行った結果、これまで実施した内容で園児にとって自ら木材を切ったという充実感や達成感が得られると非常に好評であった「丸太切り体験」を行うこととした。

ア より安全に作業を行う取り組み

作業を行う上で、工具を使用するのでより安全に作業を行うために、どのように園児に伝えるかなどを生徒同士で話し合いを行った。今回使用する工具は「のこぎり」であるので、きちんと使用方法を伝えないと危険であることを十分理解しておく必要がある。

(ア) 園児に伝えるためのポイントをあげる。

- ・道具の使い方
- ・作業の方法
- ・ケガをしないための方法など

(イ) どの方法が最も分かりやすく伝えることができるかを検討する。

生徒同士で上記の内容を検討させた結果、「紙芝居」を使用して、安全に作業を行うことを伝えることになった。紙芝居の内容、ストーリーも生徒が考え、絵も生徒が描くことにした。

イ 指導計画

(ア) 学習指導計画

項目	学習内容	配当時間
課題の設定	保育園における技術的支援・園児共同作業によるファニチャー制作の意味を理解する。 今回の制作内容を検討する。	・・3時間
調査・研究	保育園からの条件を検討し、何かできるかをまとめる。 活動の内容が決まったら、手順・役割・安全対策などを研究し、リハーサルを行う。道具の準備を行う。	・・3時間
実習	保育園にて実施する。	・・3時間（本時）
評価	実施後、アンケートや自己評価を行い、活動をワークシート・ノートにまとめ、課題研究発表会へ向け準備を行う。	・・3時間

(イ) 本時の学習展開

段階 (配当時間)	学習内容・学習活動 (生徒の学習活動)	指導内容 (教師の支援)	指導上の留意点 [観点別評価計画]
導入 08:45	○挨拶・出席確認	挨拶，出席確認をする。また授業に臨む態度を注意，確認する。	授業に臨む態度はできているか。
08:50	○作業道具等搬出準備	搬出の準備を協力して行う。	[関心・意欲・態度]
08:55	○搬出		協力して準備を行うことができるか。
09:00	○平田保育園へ移動		[関心・意欲・態度]
展開 09:10	○平田保育園到着	到着後，道具等を会場へ搬入し，すぐに設営できるようにする。	協力して準備を行うことができるか。
09:15	○会場設営	設営後，作業の説明，作業手順や役割分担を確認する。	[関心・意欲・態度]
09:30	○園児への説明	園児に作業の内容や注意事項などを分かりやすいように伝える。	分かりやすいように伝えているか。
09:40	○作業開始	園児とコミュニケーションを取り，安全に作業を進める。	[関心・意欲・態度][思考・判断][技能・表現]
10:40	○作業終了		安全に作業を進めているか。
10:50	○園児との交流	園児との交流を積極的に交流する。	[関心・意欲・態度][思考・判断][技能・表現]
11:30	○交流終了		積極的に園児と交流しているか。
11:40	○お別れ会	挨拶をしっかりと行い，最後まで園児との交流を大切にす。	[関心・意欲・態度][思考・判断][技能・表現]
11:40	○搬出準備	道具等の確認，清掃をしっかりと行う。	
12:00	○保育園出発	搬出も協力して行う。	
まとめ 12:10	○学校到着	使用した道具を戻す。	活動内容をまとめることができるか。
12:15	○片付け	活動の内容をまとめ，自己評価等を入力する。	[関心・意欲・態度][知識・理解]
	○活動内容のまとめ	ワークシート・ノートの提出。	

ウ 紙芝居の制作・発表

まずはシナリオ考え、説明するために登場人物を動物にし、園児に分かりやすい内容とした。また絵も生徒が描いた。

当日もリハーサルを行い、園児達へのプレゼンに臨んだ。紙芝居の内容は以下のとおりである。

表2 紙芝居の絵 台詞

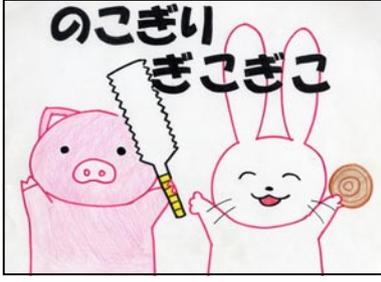
	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーター ・ブタ ・うさぎ 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のはのこりぎを使って丸太をきってコースターをつくるよ。よーく話を聞いて気をつけてやろうね。 ・たのしんでのこぎりで切ろう！ ブー！！ ・一生懸命やってみよう！！
	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーター ・さる ・ねこ 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりは木を切るための道具です。ふりまわしたり、持ちながら走ったりしないでね。 ・今日はとっても楽しいぞ！ キャキャキャキャ！！ ・さるくん、のこぎりをふりまわしたらあぶないよ、こわいよ。
	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーター ・うさぎ ・おねえさん ・うさぎ ・おねえさん 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりは両手でしっかり持って力を入れて、前や後に動かそう。お兄さんやお姉さんのいうことをしっかり聞こうね。 ・おねえさん、のこぎりの使い方、教えて。 ・しっかり両手でもって、ギコギコ、力を入れて動かそう！ ・分かった！ よいしょ、こいしょ、どこいしょ、ギコギコ。わ！！、切れた。 ・やったね！ 上手だよ！！
	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーター ・くま ・おねえさん ・くま 	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切った木をやすりという魔法の紙で磨いてきれいにしよう。 ・おねえさん、どうやって使うの？ ・かどやとげが危ないから、つるつるにするんだよ。魔法の紙を木にあてて、ゴシゴシ、ゴシゴシ。 ・やってみる。ゴシゴシ、ゴシゴシ。
	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーター ・くま ・おねえさん ・ブタ 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つるつるになったらできあがり！！ ・わーきれいになったよ！ ・やったね、上手だよ！！ ・楽しかったブー！！



図 41 リハーサル風景



図 42 園児に紙芝居を使って説明



図 43 園児に紙芝居を使って説明



図 44 のこぎりを使った丸太切り体験

エ 生徒の考察

活動後に、活動の前に自ら考えた自己評価項目や感想などをワークシートにまとめた。

保育園における技術支援ボランティア（レインワークプロジェクト act.7）について

氏名 _____

■取り組みについて積極的に参加できたと思いますか？
 思いました。
 準備や荷作り、もちろん作業もした。白紙も、
 意図的に取り組みました。

■制作の時間は十分だと思いましたか？
 充分すぎるくらいだと思います。

■園児との共同作業について、感想、問題点を書いてください。
 園児たちが真剣に作業をしている姿を見て、
 私自身も嬉しかった。あんなに真剣な顔を
 見たことがなかったので良かったです。と
 思いました。

■今日の作業、全体についての率直な感想、問題点を書いてください。
 説明も十分に出来たし、1つかたなく作業することが
 できて、良かったです。
 もう少し自分がかたくなコミュニケーションをとって、
 もう少し楽しんでもらえたら良かったです。

■自己評価の項目を3つ設定し、それが達成できたかを記入しなさい。

(1つかたなく安全に出来た))
 ⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(「楽しい」と思ってもらえた))
 5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

(うまく作業が進んだ))
 ⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

保育園における技術支援ボランティア（レインワークプロジェクト act.7）について

氏名 _____

■取り組みについて積極的に参加できたと思いますか？
 積極的に参加できたと思います。

■園児に良く話しかけて、コミュニケーションをとったり、行動をうながせた!!

■制作の時間は十分だと思いましたか？
 もっといろいろやりたいという子もいたし、やりかけの時間が
 まちまちだったので、よくわからない。

■園児との共同作業について、感想、問題点を書いてください。
 小さい方からかいっぱいでやりかけしている姿をみて
 可愛いなと思いました。またうけた反響がすごくてびっくりした。と、
 各自作業工程にこだわりがあって楽しかった。と
 トンデボールが鼻をさすので、一人づつやってもらった。と。

■今日の作業、全体についての率直な感想、問題点を書いてください。
 ・ノスタのサイズが大きすぎて取りづらかった。
 ・あまりノコギリの音がたのしいというので、
 1つかたなく作業したい。

・たのしかった!!!!

■自己評価の項目を3つ設定し、それが達成できたかを記入しなさい。

(安全に作業できたか))
 5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

(たのしく遊ばせた))
 ⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(積極的にできたか))
 ⑤ ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

図 45 参加生徒の自己評価項目への評価や感想

(ア) 生徒があげた主な自己評価項目

- ・安全第一・園児にケガをさせないように注意する。・楽しくやってもらうように声掛けをする。

(イ) 安全上の注意点

- ・のこぎりを両手で持たせる。・切り終わった後にのこぎりを振り回さないように注意する。
- ・切っているまわりで騒がせないようにする。

(ウ) 感想等

- ・一緒にのこぎりを持って作業したり「危ないから気をつけてね」と声をかけた。
- ・安全に気を付けたことは丸太を切り終わったあとすぐにノコギリを受けとること。
- ・園児の力だけで丸太を切るのは難しかった。園児達との交流は、みんな元気で楽しかった。
- ・人に教える楽しさを知った。あと何より園児達が笑顔で楽しく作業しててうれしく思った。
- ・人に教えることの難しさを知った。安全面とか気を付けなければいけないし準備とかも大変だったけど、コミュニケーションをとれたのが一番嬉しかったし楽しかったです。

オ まとめ・考察

「紙芝居」で園児に伝えるという、アナログ的であるが小さい子供にとっては最も分かりやすい方法を生徒自身が導き出した。紙芝居の内容についてアドバイスすることも多少あったが、ほぼ生徒同士で完成させた。生徒に自己評価項目を事前にあげさせることで、当日の作業内容をより理解させられると考え、また、それらがどの程度達成されたかは、数値・文字として記録を残すことで、より作業に対する振り返ることができたと考えた。

(2) メンテナンス作業の研究

ものづくりでは作るだけでなく、使用してもらい、不具合などを修理・メンテナンスしていくことも重要な要素である。つまり、作った物に対して、制作に関わった人達が責任を持つことが必要となってくる。

ア 鎌ヶ谷市立道野辺保育園での作業（実施日：平成25年3月14日）

平成19年度に制作した「おままごと用の整理棚」の塗装の剥がれが顕著であるため、整理棚に再度ペンキを塗装するメンテナンス作業を園児と共同で行うこととした。市川市立平田保育園での丸太切り体験を経験しているため、安全に作業を行う手順等は理解できていたが、今回は塗装作業であるため、また違う安全上の注意点が必要となる。

(ア) 生徒があげた自己評価項目

- ・安全第一・園児にケガがないように注意する。・園児と楽しく交流する。

(イ) 安全上の注意点

- ・ローラーやハケにペンキを付ける時は、できるだけ一緒に行く。
- ・塗り終わったローラーやハケを振り回さないように注意する。
- ・塗料が目に入らないように注意する。

(ウ) 生徒の感想等

- ・ノコギリ作業と比べて、ペンキが洋服についたり髪の毛についたりして大変だった。
- ・安全に気を付けたことは服を汚させないようにしました。
- ・ノコギリと違うのはあと片付けが大変でした。
- ・園児と一緒にスピーディーにペンキを塗るのは大変でした。
- ・始めてペンキを塗る園児に教えるのは難しかったです。

イ 宮城県東松島市「のびる幼稚園」での作業（実施日：平成24年8月28日、29日）

平成22年度に実習の課題として「子どもイス」を制作した。完成した作品を近隣の保育園に寄贈しようとしていたところ、東日本大震災が発生したので、もし被災した地域で必要があれば使用していただきたいと考えた。そこで、実践的授業や企業交流会等で支援していただいている「日本フリーランスインテリアコーディネーター協会（以下、JAFICA）」から、津波で被災した宮城県東松島市の「のびる幼稚園」が支援を希望していることをうかがい、平成23年8月、子どもイス25脚にJAFICA制作の防災頭巾を付けて現地に贈り届けた。そして平成24年度、園舎の再建に伴い、あと30脚必要との話が届き、在庫15脚と夏休みに制作した15脚を持って、平成24年8月28日（火）～29日（水）制作した代表生徒6名が、初めて実際に現地に足を運び、直接園児に届けた。手作り子どもイスを届ける活動を通しての絆は成長し続けている。のびる幼稚園での贈呈式では生徒一人ひとりがあいさつし、子どもイスを園児に直接手渡した。その後、昨年贈ったイスの汚れをサンドペーパーで落とす「メンテナンス作業」や、キャンバスに色を塗る作業などを園児と共に行い交流を深めた。最後に園児のみなさんからお礼の歌をいただいた。生徒達は被災地を見学し、また実際に被災された方々からお話をうかがい、今後私たちにできる活動は何かを考えた。この活動を行うにあたり、市川工業高校後援会、JAFICAの皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。



図 46 子どもイスの製作



図 47 のびる幼稚園 寄贈式



図 48 メンテナンス作業



図 49 メンテナンス作業



図 50 メンテナンスしたイス



図 51 被災地見学

（ア）生徒の感想

- ・実際に現地を訪問し、映像で分からない被災者の人たちの話や現地の状態を知ることが出来た。
- ・また被災が本当に色々な人に影響をもたらしたことに改めて実感した。
- ・被災地の復興も一番頑張っているのは現地の人たちなので、この椅子づくり以外でも現地の人達のサポートをしたいと思った。

ウ まとめ・考察

自分達の作った物ではない作品をメンテナンスすることは、技術的な部分の深い理解につながることは当然であるが、作った人の想いや、物を大切に使用する心を育むと思った。また園児にとっても普段自分達が使っているものをきれいにすることで大切に使うと思ってもらえると感じた。

(3) プレゼンテーションの研究

インテリア科では普段の授業から作品制作の際、コンセプトやデザインについて教員や生徒に対してプレゼンをするよう求めている。ここで言うプレゼンは「説明」である。つまり、自分の考えを分かりやすく説明する・伝える訓練を少しずつ積み重ねている。また課題研究発表など人前での発表となると生徒はすぐにパワーポイントのアニメーション機能に頼り、とりあえず写真が写れば完成したと思ってしまう。しかし、会場にいる人が数分で自分達が行ってきた内容を理解してもらうには、内容の検討、原稿と写真とリンクやより効果的で分かりやすいなプレゼン方法を考えなければならない。そこで、インテリア科で指導しているプレゼンまでの手順をまとめる。

ア プレゼンまでの手順

①活動をまとめる。

これまでの活動をまとめ、いつ、どのような活動を行ったか、その際に感じたこと、分かったことなどをメモする。また写真があれば準備しておく。

②プレゼン方法の検討。

プレゼンのために、写真を見せるためにはパワーポイントなどのソフトを使用することや、現物やサンプルを見せるなど、視覚的に訴えるプレゼン方法を検討する。

③プレゼン内容の制作。

プレゼン内容の原稿を制作し、その内容をパワーポイントなどのソフト等を使用しきちんと説明できるかを考えながら制作していく。

④プレゼンの練習。

内容が完成したら原稿とパワーポイントでの説明、写真のタイミングなどを練習する。決められた発表時間内に終わることができるように何度も練習する。

⑤プレゼンの再検討。

練習していき、より効果的な方法があれば組み込み、変更していく。また、質疑にも対応できるようにしておく。

⑥プレゼン会場での練習。

本番のプレゼン会場で練習する。会場の大きさ、マイク、パソコンの使用状況など本番と同じ環境で必ず練習を行う。本番会場の環境で決められた時間内に終わることができるか確認する。また、プレゼン全体のリハーサルも行うべきである。

イ 校内での課題研究発表会の様子(開催日：平成25年2月4日)

生徒は練習しているとどのような内容が足りないかが気付き始め、内容を再検討しながら何度も練習を行った。平田保育園のプレゼンでは、「紙芝居」を再現した方がより園児に伝えた内容が分かると考え、保育園と同じように行った。



図 52 平田保育園の発表



図 53 紙芝居を行い説明する



図 54 被災地活動の発表

ウ 卒展での公開プレゼンテーションの様子（開催日：平成25年2月23日、24日）

千葉県立現代産業科学館で開催した卒展では、一年間取り組んだ課題研究や実習内容の発表・展示を行った。卒業制作展では、作品の展示が一般的であるが、プレゼンできる力を身につけることが大きな目標でもあるインテリア科にとって、校内とは会場の規模が違う現産館のサイエンスドームで課題研究発表ができることは、これまでの集大成とも言える。ここでも同様にプレゼンまでの手順にそって準備を行った。普段の校内の発表ではないので、特にプレゼン会場での全体練習を綿密に行った。



図 55 卒展展示会場



図 56 被災地支援活動の
パネル展示



図 57 サイエンスドームにて
一般公開で課題研究発表を行う

エ まとめ・考察

より良いプレゼンにするためにはプレゼンの手順④、⑤、また⑥を繰り返さなければならない。また練習の際に内容を知らない第三者にアドバイスを求めることも大切である。

現産館でのプレゼンでは生徒は大舞台にかなり緊張していたが、事前の準備がしっかり出来ていたので、素晴らしいプレゼンができた。終わった後、生徒全員が自信に満ちた、達成感のある笑顔だったことが印象的であった。

4 おわりに

本研究では、自分達が学んだ知識や技能を、地域にどのように還元でき、それが継続していくためにはどのような取り組みをすべきかを研究した。これからの時代、それぞれの学校は地域に愛される存在になっていかなければならないのではないかと考える。工業高校はものづくりができる。他の学校より地域に還元できるポテンシャルを持っているはずである。それぞれの学校・学科が工夫して地域と連携し、ともに努力できるような関係を目指していけたらと考える。また、継続して活動を続けていくためには、作って終わりではなく、使用してもらい、安全面を考慮して定期的にメンテナンスしていくことは必要不可欠となってくる。メンテナンスの方法や期間は様々であるが、生徒作品を使用している場所とのコミュニケーションを積極的に取り、メンテナンス計画等を考慮していくことが必要ではないかと考える。これは制作した物に対して責任を持つこと、生徒のコンプライアンス教育、またものづくりをとおした道徳教育にもつながるのではないと思う。さらに、今まで行ってきた活動を生徒自身がプレゼンを行うことで、多くの人に知ってもらい、ものづくり教育の意義や存在を理解してもらおう努力がもっと必要であると考える。また、生徒一人一人のプレゼン能力を向上させることで、生徒は主体性を身に付け、その後の進路活動へもかなり有効的であると思われる。

最後に、本研究に関して御指導いただきました千葉県教育庁教育振興部指導課 安田国土指導主事、同 江口敏彦前指導主事、千葉県立清水高等学校 山崎泰浩先生、千葉県立市川工業高等学校 小野祐司校長、同 吉田武司教頭、同 関口昌宏前教頭、同 インテリア科の先生方、並びに本研究に関わった多くの先生方及び生徒のみなさんに心から感謝申し上げます。